

令和2年度第2回 香美市ものづくり会議 会議録（要約）

令和3年3月17日（水）14：00～15：50

香美市立中央公民館 1階 大ホール

● 会議の出欠

出席委員 16名（内1名代理出席）、欠席委員 1名

● 分科会の報告

土佐打刃物分科会

- ・分科会の開催（1回）
- ・鍛冶屋創生塾の研修現状
- ・第2期生の応募と審査結果
- ・研修生のこれからの課題
- ・次年度事業予定

土佐山田フラフ分科会（名称をフラフ分科会から改名）

- ・分科会の開催（2回）
- ・フラフデザインバックを作ることになった経緯
- ・「土佐山田フラフ」の名称決定
- ・バックの完成と今後の情報発信
- ・その他のフラフ広報活動
- ・次年度事業予定
- ・市内フラフ事業者のPR動画の視聴

物部川ブランド分科会

- ・分科会開催（2回）
- ・高系芋焼酎づくりの経緯
- ・焼酎以外の活動
- ・次年度事業予定

ふるさと納税分科会

- ・分科会開催（1回）
- ・分科会長の交代（寺村委員から三谷委員に交代）
- ・令和2年度2月までの実績報告
- ・現状課題
- ・次年度事業予定

第一次産業分科会

- ・分科会の開催（2回）と見学会の開催（2回）
- ・Nest 次世代園芸農業見学
- ・香美市の林業の現状と課題
- ・生姜生産加工事業者の事業概要
- ・次年度事業予定

● 意見交換

1. 土佐打刃物分科会

【意見】

・鍛冶屋創生塾ができる前から課題となっていた問題が再び浮上している。当初想定していた見通しとは違ってきている。塾生が卒業後も市内に残り独立に向けて取り組める環境整備に向けた検討を早急に進めて欲しい。

【分科会】

・塾生の希望種と受入先の取扱種にミスマッチが生じた場合の懸念が浮上している。市内に鎌や鉈の専門事業者はあるが包丁鍛冶(両刃)の受入先が少ない。近年は包丁需要が大きく人気も高い。卒業生が希望する刃物種に従事できる形を検討している。組合からは鍛造団地の要望もあり、これからの議論の中心となる。

2. その他

【意見】

・子どもたちにフラフ、打刃物、フォトコンテストや芋栽培などの体験や企画参加をできる場があれば参加し、このまちで育ち、このまちを好きになり、このまちに戻ってくる人材を増やしたい。香美市で育っても県外へ出て帰る者が少ない。産業を担う人材を育てる人づくりのために、地元の学校への進学を支援する制度や資金はないか。

【委員】

・企画段階から相談があれば、マーケティングなどの専門的な提案に協力できる。
・市からも地域活動に関する補助金はある。引続き体制は取っていく。
・以前に比べれば地元の高校もずいぶん地域に開かれてきた。引続きもっと情報発信をしていただきたい。
・電子マネーカミカを利用した地域ポイントを活用して、地元の学生がもっと地元行事やボランティア作業と関わる活動の呼び水にしてはどうか。カミカを利用することで利用先として地域の店舗にも関わりが増える。
・通学定期などへの支援は行っている。限定的な支援は市民の理解を得ることが難しい。広い視点で地元高校を応援する支援があれば提案して欲しい。

3. 土佐山田フラフ分科会

【意見】

・エコバックを店舗販売用に取り入れたいが可能か。

【分科会】

・企業同士のお話で直接進めていただけるといい。

4. 物部川ブランド分科会

【委員】

・高系芋焼酎神池もフラフバックも、量産体制が整いどんどん販売して行けるようになることに期待する。

5. ふるさと納税分科会

【意見】

・ランキングで人気の上位を取る市町村と香美市では何が違うのか。

【分科会】

・ランキング上位の市町村には取扱いの出展数が倍以上ある。海岸線に面し魚や海産物などの人気の高い商品や定期便がある。人気キャラクターもある。また、ポータルサイトの見せ方も工夫がある。香美市でも来年度からプロデューサー契約をして、動画も活用したサイトのレベルアップを図る。企業版ふるさと納税にも取り組む。

6. 第一次産業分科会

【分科会】

・香美市には日本トップクラスの森林資源がある。山（林業）が荒廃すると里（農業）や海（漁業）にも影響する。山の雇用と農業や漁業と共に栄える形を模索する。

・当会はまだ課題が見えてこない現状にある。林業にも農業にも課題はたくさんあるが、林業と農業がつながる形を模索し、農林業に就きたいと思えるために検討したい。

● その他

令和3年3月末で本会議委員の任期満了

本会終了後に、マスコミに向けてフラフバックと芋焼酎神池の発表